

郷土の偉人



杉浦睦夫 氏 中野町出身

# 杉浦睦夫

杉浦睦夫は、世界初の胃カメラを開発した主任研究員である。

1918(大正7)年浜名郡中ノ町(現在の東区中野町)に生まれる。

中ノ町尋常小学校、浜松一中(現在浜松北高)を経て東京写真専門学校で学んだ後、オリンパス光学入社1949(昭和24)年「直接胃の中を撮影するカメラを作りたい」と考えた東京大学付属病院の宇治達郎外科医たちの要望にこたえて開発を担当。深海正治研究員とともに開発に着手した。

最新の胃カメラセット



当時、胃の病気の診断にはレントゲンと胃鏡の二通りの方法があったが、レントゲンでは胃の内部の壁の様子まではわからず、また胃鏡では食道を傷つける危険がありどちらの方法も短所を抱えておりました。胃カメラといっても最初はどんな方法をとればよいのかわからず、研究は難航していましたが「胃の中は暗室。光とレンズ、フィルムさえあれば写真は写る」。





開発当時の胃カメラ

という杉浦氏の考えで光が見いだされ、胃の中に入れるゴム管やフラッシュ用の小型ライト、レンズなど苦心を重ね研究が続けられた結果、昭和25年（1950）11月、遂に胃カメラが完成しました。

胃カメラは後に「内視鏡」と呼ばれるようになり、管路を通して様々な形状の処置具を入れる処置方法が普及したほか、その技術は目視で撮影できるファイバースコープやモニター観察が可能なビデオスコープへと発展して、世界で多くの人命を救っています。



杉浦睦夫顕彰コーナー：中野町小学校





薬師町 田島昭次

歴史に残る人々

小枝桑次郎 (小枝来舗) 金原明善 高柳健次郎

杉浦睦夫 鈴木曆太郎 大橋島太郎 石山脩平

その他和田地区の偉人をご存知の方ご一報ください

090-8671-6548 田島

和田地区偉人 R-5